

## 第12回あわら市子ども・子育て会議録

1 日 時：平成30年8月27日（木）19時00分～21時00分

2 場 所：あわら市役所 102会議室

3 出席者

(1) 委員

森俊之委員（会長）、浅野壽恵委員（副会長）、五十嵐美根子委員、  
野村等委員、五十嵐由紀子委員、久保地誠委員、木谷眞知子委員  
先川原八千代委員、塚田美紀子委員  
《欠席者》竹内浩美委員、橋本純一委員、

(2) 事務局

《子育て支援課》

大代典子課長、山本昌明子育て支援GL、村中直子児童福祉GL、  
井上堯之主事

4 議題

(1) 子ども・子育て支援各事業の平成29年度実績

及び平成30年度進捗状況（資料1）

(2) 平成31年度 各認定こども園定員について（資料2）

(3) 定員を超える申込みがあった園の選考基準改定（案）について  
（資料3）

(4) その他

5 決定事項

☆こども園の定員について平成31年度は現行通りとの承認を得た。（資料2）

会議の経過

○事務局 （開会あいさつ）  
（会議の趣旨について説明）

～会長及び副会長の選任～

○事務局 あわら市子ども・子育て会議条例第4条により会長及び副会長を  
選任いたします。規定では互選により定められておりますが、  
いかがいたしましょうか。

○ （事務局一任の声）

- 事務局 会長に仁愛大学の森教授、副会長に主任児童委員の浅野様をお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。
- 委員全員 (拍手)
- 会長、副会長 (選任挨拶)
- 事務局 ここからは規定により、森会長に議事進行をお願いいたします。
- 議長(会長) 議題に従い、議題①子ども・子育て支援各事業の平成29年度実績及び平成30年度進捗状況(資料1)、事務局より説明してください。
- 事務局 **【資料1に基づき説明】**
- 会長 サービスについての見込み値は、平成30年度上半期の実績をふまえたものとなっているのか。
- 事務局 8月までの実績を踏まえた見込み値となっている。
- 会長 こども園の利用見込みは実績をふまえたものなのか、それとも計画当初の見込み値なのか。
- 事務局 こども園の方は、計画作成時の見込み値。
- 副会長 一時預かり事業等が増えると、園の負担は増すのでは。
- 事務局 財源的には、適正に支援される形となっている。
- 議長(会長) 議題に従い、議題②平成31年度各認定こども園定員について(資料2)、事務局より説明してください。
- 事務局 **【資料2に基づき説明】**
- 野村委員 市全体としては、許容範囲内に収まっているとの説明でしたが、定員を超えて受け入れをしている園もあり、これ以上伸びてくると、受け入れ困難となりそうな所はないのか。
- 事務局 受け入れ困難となることはない見込み。31年度まではこのままの定員で受け入れ可能と考えている。32年度以降については、第2期計画策定時にニーズ調査等を行い、見直しを図る予定。
- 議長 120%を超えて受け入れをしているこども園については、その入園者数に合わせた保育士さんの手当て等があると思っよいか。
- 事務局 こども園の園長先生方もおられますので、状況をお伺いしたい。
- 木谷委員 0歳児3人に対して1人、2歳児については、6人に1人というようになっていますが、そこから出た時には必ず、従事してただけの方を探すことになっている。なかなか資格を持った人を探すのは難しい。それでも、どこの園でも人を探している。
- 副会長 0歳児の超過率が高いところは、大変。
- 五十嵐委員 0歳児に関しては、特に途中入園の子が多い。1歳の誕生日を

待って、そこから育休があけて入園するという感じ。保育教諭の余裕はみているが、後半になると、人手が必要になってくる。園の運営に関して言うと、後半に入園する0歳児を見越して、人材確保をしていかななくてはいけない。面積については、常に計算機を片手に、足りているか確認しながらやっている。途中入園も見越して、親御さんが入園希望を出されることがほとんどなので、それ以外の緊急の場合には、各園事情によって受け入れを考えていると思う。2歳児がとても多くて、事情によっては、緊急の入園はお断りしなくてはいけないこともある。それはとても心苦しいが、仕方のない面もある。

- 事務局 育休を2年、3年という形で取られる方が少なくなってきたのでしょうか。企業の景気が良くなってきたのか、1年間しか育休を取らない人が増えてきたのか、3歳未満児のこども園への入園割合が平成28年度66%から29年度72%と伸びている。統計的に増えている印象。特に1歳児の入園割合は68%から81%と伸びている。職場復帰が早まっている感じだが、現場の感触としてはどうか。
- 五十嵐委員 職場状況というよりも、核家族化が進んでいるという感じ。祖父母がいても現役世代でまだ勤めていたりすると、こども園に預けざるを得ないような状況だったり、家でこどもをみるという習慣というか、そういうものがどんどん薄れてきている。それよりは、園に早いうちから預けたいという考え方の親が増えている。
- 先川原委員 自分もそうだが、周りの母親たちも1人目よりも、2人目、3人目となるにつれて、どんどん早く預ける傾向にある。1歳を待たずに入園をお願いすることが多いと感じる。預けて働かないと、経済的にも大変だからというのが理由にはある。
- 議 長 今の育児休暇の延長の理由に「保育園などに入れない」というのがあるが、あわら市の場合、待機児童がいないので、その理由は通用しない。育休延長はどのようにしているのか。
- 事務局 小学校区内の希望のこども園へ入れないという証明を書いてほしいと言われることもあるので、それで育休延長をしている人もいると思う。
- 先川原委員 この3月末時点での園児数の中には、里帰り出産などをして、上の子を実家近くのこども園へ預けている場合なども含まれているのか。
- 事務局 入っている。3月末で10人から20人程度。

- 木谷委員 昨年くらいから里帰り出産が増えている。
- 議長 里帰り出産での入園とは、下の子を出産するときに上の子をこども園へ預けるということ。
- 先川原委員 それだけ、預けやすい環境があわら市にはあるということにもなる。
- 議長 来年度のこども園の定員については現状維持ということによろしいか。
- 委員全員 了承。

### 議題③定員を超える申込みがあった園の選考基準改定（案）について

- 事務局 【資料3に基づき説明】
- 議長 意見を求めます。
- 先川原委員 「児童が障害者手帳有」の要件は、生活保護やDV等と同様に、当然に優先させる事項として除外し、「保護者が障害者手帳有」の要件を加えてはどうか。
- 五十嵐委員 ひとり親家庭に関して、優先順位が高くなっている理由は。
- 事務局 福祉的観点から上がっている。
- 五十嵐委員 福祉的観点から上げなくてはならないような状況のひとり親家庭と、そうではないひとり親家庭がある。そこら辺の仕分け、確認はどうするのか。ここまで点数をあげる理由があるなら教えてほしい。ひとり親家庭と単身赴任をしているような家庭とでは、同じような大変さがある。経済的な面は別として。
- 議長 ひとり親家庭は受付時に確認する方法があると思うが、単身赴任は、確認できるのか。
- 事務局 できないこともないが、難しい。
- 副会長 ひとり親家庭でも、実家の両親の支援をうけることができる家庭とそうではない家庭では状況が異なる。そこまで勘案すると、事務が煩雑になるのでは。
- 議長 意見が分かれており、集約が難しい。
- 事務局 この場で多数決を取るのも難しいので、出席の委員一人ずつから各項目の優先順位を後日投票してもらい、集計する。その上で優先順位を決定したい。
- 議長 事務局提案のとおり、この場では決めきれないので、意見を集約するため、投票とし、集計した形で優先順位を決定したいが、いかがか。

- 委員全員 了承。
- 議長 今後の進め方としては、今年度中に子ども・子育て支援会議を再度開く。  
これをもちまして、第12回子ども・子育て会議を閉会します。

**【委員からの投票を後日集計した結果による優先順位と配点】**

- (1) 保護者が障害者手帳あり・・・・・・・・ 7点
- (2) ひとり親家庭・・・・・・・・ 6点
- (3) 園から家や職場の距離が300m以内・ 5点
- (4) 卒園児の弟妹・・・・・・・・ 4点
- (5) 昨年希望の園に入園できず・・・・・・・・ 3点
- (6) 多子世帯（児童3人以上）・・・・・・・・ 2点
- (7) 教育保育提供区域内の園・・・・・・・・ 1点

議題③定員を超える申込みがあった園の選考基準改定（案）についての優先順位と配点については、上記のとおり変更する。